

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100386		
法人名	社会福祉法人 ふるさと自然村		
事業所名	グループホーム かがみ		
所在地	高知県香南市香我美町岸本ルノ丸328-39		
自己評価作成日	平成27年8月28日	評価結果 市町村受理日	平成27年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者一人ひとりの想いに寄り添うことや、あたりまえの生活を提供することを心がけています。行動を制約せず、可能な範囲で自由に過ごせるよう配慮しています。また、季節によっては家庭菜園で茄子やキュウリ・トマトを入居者さんと作っています。散歩や外気浴を続け、屋外の気温の変化や風を感じる事で気分転換出来るよう配慮しています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&jiryosyoCd=3972100386-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年9月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は海に近く、歩行可能な利用者も、車いすの利用者も共に散歩に出かけ、潮風を受けて気分転換を図っている。また、散歩の途中で出会う地域住民と交流している。</p> <p>職員は利用者一人ひとりが自立した生活を送るための支援を大切にしており、個々の希望や意向に沿いながら、日常生活における食事、入浴、排泄、更衣などは、利用者を急がせずゆっくりと時間をかけてケアすることを心がけている。地域との交流も大切にし、家族の協力で買い物や、美容院、敬老会、墓参りなどに出かけたり、職員と一緒に外出の機会も作っている。</p> <p>健康管理面では、協力医療機関が隣接しており、定期的に診察を受けることができるので、利用者・家族の安心につながっている。また、海岸に近い立地条件から、津波の避難方法の検討と避難訓練に力を入れ、利用者の安全確保に努めている。</p>

自己評価および外部評価結果

ユニット名: のぎく

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で頻繁にご家族の訪問を受け、自宅では暮らせなくても出来るだけ寂しさを感じにくい環境を作っている。また、職員一人ひとりが入居者さんの想いに寄り添えるよう日々自己を振り返り、反省しながらケアにあたっている。	地域とのふれあいを大切に、ゆったりとした温かい生活環境をつくることを理念に掲げ、特に利用者個々の自立した生活支援のため、あせらずゆっくりと利用者のペースに合わせたケアを心がけている。機会あるごとに、理念の実践を職員間で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者さんの散髪には地元的美容院から訪問してもらっている。また、ボランティアさんの訪問や散歩中に出会ったご近所の方の中には、なじみの関係が出来ている方もいる。	町内会には加入せず、家族や職員の情報から、どろめ祭り等様々な地域イベントに出かけて交流の機会を作っている。傾聴ボランティアや地元的美容室から訪問があり、隣接の有料老人ホームとの交流も行っている。	町内会の組織や活動について確認し、地域とのつきあいの観点から町内会加入の可否を検討することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族から直接入居相談を受けるケースが多く、その都度ご家族の困っている事等のお話を伺い、経験の中からアドバイスを行っている。必要であれば他の事業所への紹介も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族には運営状況をありのまま報告し、率直なご意見も頂けている。また、介護保険についての質問なども頂き、ご家族がどのようなことについて理解しにくいのか気付かされ、日頃の説明等をわかりやすく行うよう配慮している。	会議には毎回、家族代表、市職員が参加しているが、地域代表は参加していない。意見交換は活発に行われ、会議で出た意見は職員に伝達し、反省点や改善すべき内容を確認し、ケアに活かしている。会議内容は、玄関に掲示しているが家族への送付は行っていない。	会議への地域代表の参加とともに、会議結果の周知をより図るため、参加していない家族への議事録の送付を検討することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問や困ったこと等を電話で問い合わせしている。また、運営推進会議でもアドバイスを頂いている。	市との日常的な情報交換は円滑に出来ている。書類等はできるだけ持参し、担当職員と顔を合わせ関係づくりをしている。市主催の研修は年5回程あり、職員が交代で参加して伝達講習を行い、内容の共有とケアの向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束や薬物による拘束についても、日頃のケアの中で話し合っている。また、離設される入居者さんについても安易に施錠するのではなく、小まめな所在確認で対応している。	法人や市が主催する身体拘束に関する研修には積極的に参加し、職員に伝達して現状を見直している。職員は身体拘束をしないケアの重要性を認識しており、多忙時等につきい制止や命令的な言葉が出たときは、その都度注意し合っている。玄関は開放し、利用者を常に見守りながらケアしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	混乱症状が強く、ケアに対して拒絶や服薬拒否がある入居者さんには無理に何とかしようとせず、時間をおいて対応することや別の職員が変わることなどで、出来るだけ職員がストレスをためないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	統括施設の勉強会で学ぶ機会はある。実際には実子や配偶者のいない入居者さんについて、成年後見制度についてお話をすることはあるが、活用につながったケースはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分時間を取って説明し、疑問にも答えている。改定の際には、事前に文章でお知らせし、その後、直接説明を行っている。ご理解・納得を頂けていると思っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口及びご意見箱を設置しているが、今までご家族や入居者さんの利用は無い。直接ご家族や入居者さんからご意見を頂く事が多く、その都度職員に周知し検討しているが、外部者に表せる機会は設けていない。	家族の来訪時には必ず面談の機会を作り、意見を聞いている。敬老会などの事業所の行事には、6家族程度の参加があり交流している。運営推進会議へは、毎回2家族が交代で参加し、意見を交換したり事業所運営に関する理解を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務上何かあれば、直接職員から意見が上がってきている。そのことについて、他の職員からも意見を聞き反映している。また、職員会議も行っているが頻繁には実施できていない。職員が意見を言いやすい職場の雰囲気作りには配慮している。	職員間及び管理者とのコミュニケーションはとれており、日常的に申し送りノートで情報交換し、職員全体で共有している。食事のときは車椅子から食卓の椅子に移乗することや、シルバーカーを利用した歩行など、職員から自立に向けた提案が出され、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により、賞与に反映して貰っている。勤務状況については、職員によって不満もあるようだが上司と相談し、職員が増えれば見直す予定である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質に応じて研修会に参加して賞っている。また、ホーム内で勉強会を月に1回行っている。担当職員が資料作り、日程調整を行い、自主性を持って行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香南市高齢者介護課主催の勉強会等で同業者との関わりは有るが、それ以外での積極的な交流は持っていない。法人内グループホーム間では管理者会を行って課題等を持ち寄り話し合っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行っている。入居後は早期に馴染んで頂けるように職員からの声掛けを頻繁に行っている。又、他の入居者さんの中で気が合いそうな方を職員間で検討しセッティングしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ面会に来て頂き、ご本人の様子からご意見を頂いている。また、記録を提示し、様子や食事・水分摂取量を見て頂く事で信頼して頂いていると思う。日頃より面会時にあいさつや報告を行い、ご家族が話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に困っていることを伺い、その緊急性などご本人やご家族の意向も踏まえて、必要なサービスにつなげられるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事や散歩を行い、入居者さんが職員を助けてくれていることに感謝していると、言葉で表現している。そのことから入居者さんの意欲に繋がられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に外出や外泊・外食を負担にならない程度にお願いしている。また、ご家族にはご本人の日頃の様子や言動などを報告し、入居者さんとの関係が途切れないよう配慮を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩がてら、隣の老人保健施設に寄って、馴染みの職員や利用者さんに会う機会を作っている。また、元お隣さんだった入居者さんが同じホームの別ユニットに居るので、遊びに行ったりしている。	アセスメントにより把握した、利用者が大切にしていた生活習慣、思いや意向をできるだけ介護プランに反映し、美容室、買い物、地域の行事への参加、墓参り、隣接の有料老人ホーム等にいる友人の訪問などを通して関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者さん同士が自主的に一緒に過ごしている時には、そっと見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた入居者さんのご家族が来設され、馴染みの入居者さんとお話したり、職員に近況報告されることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアに対して拒絶される事があるが、無理強いはせず時間をおいて対応している。また、日常の中で入居者さんの自由を可能な範囲で尊重するようにしている。	利用者の思いや意向は変化するので、常に日常の関わりの中で意識して、意向把握に努めている。家族の多くは、利用者が元気で現状維持ができることを希望しており、意向に応じて体力が低下しないように取り組んでいる。特に、食事については楽しめるよう利用者の希望を取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、出来るだけ多くの情報を収集するようにしている。また、入居後も気になることはご家族に少しずつ伺い、入居者の理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア時に気付いたことや変化については随時記録に残し、また、申し送りを行い全職員が周知出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を伺い職員からも意見を出し合い、介護計画を作成している。	計画作成者がプランを立て、職員の意見を踏まえて最終案を作成し、家族へ説明している。3カ月毎のモニタリングで計画の実施状況を点検し、実施できなかったときは理由を記載して見直しに活かしている。カンファレンスは職員のみで行い、家族には計画に対する意向や要望を確認している。	次のステップとして、可能な家族からカンファレンスへの参加を呼びかけ、参加することで、より一層家族の協力や職員との信頼関係が深まることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況を記録に残している。気づきや変化については詳細に記録し、計画の変更に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外泊や外出でも自由に出かけて頂いている。面会時間についても、朝でも夜間でも特に制約なく柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お天気の日には毎日散歩に出掛け、ご近所の方と顔なじみになっている。また、岸本コミュニティセンターや小学校周辺への散歩も行い入居者さんに説明している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状に応じて主治医から専門医に紹介して貰っている。また、その都度ご家族の医療に対する意向を伺って医師に伝えている。	家族、利用者の希望を優先し、殆どの利用者が内科的疾患は協力医療機関をかかりつけ医にしている。月に2回往診があり、健康管理が出来ている。専門医については家族が受診に同伴し、緊急の場合は職員が付き添っている。受診結果は家族の報告により、介護記録、連絡ノートで共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時には電話で報告し、助言をもらっている。また、出勤時には、入居者の報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、生活の情報をサマリーとして報告している。また、出来るだけ早期の退院を目指し情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	徐々に重度化してきた時点で、ご家族の希望とホームで出来る事のすり合わせを行っている。可能な限りご家族の意向に沿うようにしている。	入居時に看取りの指針に基づき、事業所で出来る看取り介護について説明しており、利用者の状況変化に伴い、随時話し合うことにしている。利用者1名の看取り事例と、最終的に入院となった2名の介護事例があり、経験を踏まえながら、できるだけ家族の意向に沿うように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回から2回、急変時の対応・AEDの使い方など香南消防署の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回、近隣の4施設合同の防災訓練を行っている。また、そのうちの1回は消防署立会いで実施し、指導も受けている。	隣接する4施設と合同で防災訓練を年4回実施し、うち1回は消防署の協力を得ている。隣接の有料老人ホーム4階が避難場所であり、時間を測定しながら最良の避難方法を検討している。地域住民への呼びかけはしていない。非常食等の備蓄については、浸水のない安全な場所での保管を検討している。	訓練への可能な住民参加、或いは地域との連携体制を検討するとともに、非常食の保管場所については、安全が確保される場所を早急に確定し、県の地震防災対策マニュアルに掲げる数量等を目安に、常時備蓄しておくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの立場に立ってケアを行うことを心がけている。	トイレ誘導時の声かけは利用者の尊厳に配慮し、目立たないようにしている。居間は利用者が一日の大半を過ごすので、大きな音を立てないように、職員の声や歩き方に注意を払っている。職員には利用者、家族から知りえた情報を他に話さないよう徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの際にはその都度意向を伺い、安全の範囲で自由に行動できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人で過ごしたい時間を尊重するようにしている。入浴時に着替えなどに時間がかかっても、自分で行おうと意欲のある方には自分で実施して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を選べなくても、その人らしい服装を身に付けられるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝える入居者さんには、野菜の下ごしらえや後片付けを職員と一緒にしていただいている。	献立は利用者の希望を取り入れるよう心がけている。利用者には食事づくりや準備の中で、自分に出来ることに参加してもらい、職員は利用者と一緒に食事し、食事内容を話題にしたり、食が進むように話しかけ、気配りをしながら食事が楽しくなるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、少ない時には合間に補うようにしている。また、可能な限り自分のペースで食事をしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には毎食後口腔ケアを行っているが、拒否が強かったり、「後です」と言われた時には無理強いしていない。時間をおいて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツに頼らず布パンツにパッドを使用し、トイレ誘導で対応している。また、全介助であっても、日中は出来るだけトイレで排泄を行えるようにしている。	トイレでの排泄が自立している利用者が6名いる。他の利用者も出来るだけ紙パンツでなく、布パンツとパッドを使用してトイレで排泄できるよう支援している。夜間、自室でポータブルトイレを使用する利用者には、転倒を避けるため度々訪室し、注意を払っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方には、起床時にプルーンジュースを提供している。また、出来るだけ水分摂取をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ強制しないよう、気分よく入浴して頂くようにしている。ただ、職員の配置の関係上、夜間の入浴は出来ていない。	職員の立会いで、出来るだけ自力で入浴できるように支援している。一人あたりの入浴時間をゆっくりとっており、1日おきに入浴したい利用者など、利用者の希望に合わせて、時間や日を調整している。入浴の拒否があれば、言葉かけやタイミングを工夫して入浴につなげるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れ具合や体調によってベッドタイムを取って頂いている。また、リビングを好まれる方には、畳で休めるように環境設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用については、申し送りノートや記録を使って全職員に周知している。また、服薬後の症状の変化があれば医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお皿洗いを手伝ってくださっている。必ず感謝の言葉を表現し、役割を担っている事を実感して下さっているようである。また、自宅で散歩が日課となっていた方は、続けて散歩に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人が自宅に帰りたいとの希望がある時には、ご家族に依頼し外出支援をしていただいている。また、ホームでも西島園芸団地に行事として出かけた。	希望する利用者は、朝の時間に散歩を楽しんでおり、車椅子の利用者も散歩に出ている。家族の協力で墓参り、敬老会、美容院、買い物に出かけるほか、職員が付き添って買い物や近くの海浜公園にも行っている。年に数回は、団体で観光地にドライブしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には、問題にならない程度のお金を持っていただいている。また、パンの訪問販売が来た時には、購入時に支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたいとの希望がある時には取次ぎ、直接お話ししていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音を立てない、適切な室温を保つなど日頃より配慮している。また、季節感のある花木を飾っている。	居間兼食堂は広くて採光も良く、外の景色や飾りつけた花で季節を感じさせている。また、畳コーナーも設けてくつろぐ場所にし、廊下には、行事の写真や職員作成の工芸品を展示して、和らいだ空間にしている。週4回、業者に清掃を依頼しており、トイレや浴室などを清潔に管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で静かに食事をしたい時には希望に沿っている。気の合った利用者同士と一緒に本を読まれたり、思い思いに過ごして頂いている。あまり強要しないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇、机や椅子、大切にしていた本等置いて頂いている。	入居時には、家族に馴染みの物の持参を勧めている。筆筒、愛読書、家族写真、仏壇、洋服掛けなどを持ち込み、それぞれ個性のある居室になっている。収納場所が設置されており、居室は整頓や掃除が行き届き、居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室が分かりやすいよう目印をつけている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名: すみれ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で頻繁にご家族の訪問を受け、自宅では暮らせなくても出来るだけ寂しさを感じにくい環境を作っている。また、職員一人ひとりが入居者さんの想いに寄り添えるよう日々自己を振り返り、反省しながらケアにあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者さんの散髪には地元の美容院から訪問してもらっている。また、地域のボランティア(草引き・ハーモニカなど)の訪問もある。散歩中に香南くろしお園の利用者さんと会うことがあり、挨拶をしてくださる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族から直接入居相談を受けるケースが多く、その都度ご家族の困っている事等のお話を伺い、アドバイスを行っている。必要であれば他の事業所への紹介も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族には運営状況をありのまま報告し、率直なご意見も頂けている。また、介護保険についての質問なども頂き、ご家族がどのようなことについて理解しにくいのか気付かされ、日頃の説明等をわかりやすく行うよう配慮している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問や困ったこと等を電話で問い合わせしている。また、運営推進会議でもアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束や薬物による拘束についても日頃のケアの中で話し合っている。また、離設される恐れのある入居者さんについても行動パターンを把握し、昼間の施錠は行っていない。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>混乱症状が強く、ケアに対して拒絶や服薬拒否がある入居者さんには無理に何とかしようとせず、時間をおいて対応することや別の職員が変わることなどで、出来るだけ職員がストレスをためないようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>実子・配偶者のいない利用者さんについて成年後見制度を利用されている方がいる。そのようなことから、学ぶ機会が得られている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には十分時間を取って説明し、疑問にも答えている。改定の際には、事前に文章でお知らせし、その後、直接説明を行っている。ご理解・納得を頂けていると思っている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口及びご意見箱を設置しているが、今までご家族や入居者さんの利用は無い。直接ご家族や入居者さんからご意見を頂く事が多く、その都度職員に周知し検討しているが、外部者に表す機会は設けていない。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>業務上何かあれば、直接職員から意見が上がってきている。そのことについて、他の職員からも意見を聞き反映している。また、職員会議も行っているが、頻繁には実施できていない。職員が意見を言いやすい職場の雰囲気作りに配慮している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課により、賞与に反映して貰っている。勤務状況については、職員によって不満もあるようだが上司と相談し、職員が増えれば見直す予定である。また、介護福祉士の資格が無くても、長らく真面目に就業している職員は正規職員としてもらっている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の資質に応じて研修会に参加して貰っている。また、ホーム内で勉強会を月に1回行っている。担当職員が資料作り、日程調整を行い、自主性を持って行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>香南市高齢者介護課主催の勉強会等で同業者との関わりは有る。また、個人で行っている認知症の勉強会では同業者との関わりがある。法人内グループホーム間では管理者会を行って、課題等を持ち寄り話し合っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に見学や面談を行っている。入居後は早期に馴染んで頂けるように、職員からの声掛けを頻繁に行っている。又、他の入居者さんの中で気が合いそうな方を、職員間で検討しセッティングしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>出来るだけ面会に来て頂き、ご本人の様子からご意見を頂いている。また、日頃より面会時にあいさつや報告を行い、ご家族が話しやすい環境作りに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談時に困っていることを伺い、その緊急性などご本人やご家族の意向も踏まえて、必要なサービスにつなげられるよう配慮している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員と一緒に家事や散歩を行い、入居者さんが職員を助けてくれていることに感謝していると言葉で表現している。そのことから、入居者さんの意欲に繋げられるようにしている。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族に外出や外泊・外食を、負担にならない程度にお願いしている。同窓会に参加される方もいる。また、ご家族にはご本人の日頃の様子や言動などを報告し、入居者さんとの関係が途切れないよう配慮を行っている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>同窓会への参加や友人の訪問など、在宅生活で行っていたことを継続して行えるように支援している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲の良い入居者さん同士が自主的に一緒に過ごしている時には、そっと見守るようにしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後に亡くなられた方でも、葬儀に参列しご家族と故人の思い出をお話したりするケースがある。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケアに対して拒絶される事があるが、無理強いはせず時間をおいて対応している。また、日常の中で入居者さんの自由を可能な範囲で尊重するようにしている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に、出来るだけ多くの情報を収集するようにしている。また、入居後も気になることはご家族に少しずつ伺い、入居者の理解に努めている。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>ケア時に気付いたことや変化については随時記録に残し、また、申し送りを行い全職員が周知出来るようにしている。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人やご家族の意向を伺い、職員からも意見を出し合い、介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>気づきや変化について詳細に記録し、計画の変更に活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>急な外泊や外出でも自由に出かけて頂いている。面会時間についても特に制約なく、ご家族の都合で来て頂いている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>お天気の日には毎日散歩に出掛けている。また、岸本チューリップフェアにも散歩がてら出かけている。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>病状に応じて、主治医から専門医に紹介して貰っている。また、その都度ご家族の医療に対する意向を伺って医師に伝えている。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>急変時には電話で報告し、助言をもらっている。また、出勤時には、入居者の報告を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、生活の情報をサマリーとして報告している。また、出来るだけ早期の退院を目指し情報交換を行っている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>徐々に重度化してきた時点で、ご家族の希望とホームで出来る事のすり合わせを行っている。可能な限りご家族の意向に沿うようにしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に1回から2回、急変時の対応・AEDの使い方など香南消防署の指導を受けている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に4回、近隣の4施設合同の防災訓練を行っている。また、そのうちの1回は消防署立会いで実施し、指導も受けている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの立場に立ってケアを行うことを心がけている。</p>		

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ケアの際にはその都度意向を伺い、安全の範囲で自由に行動できるようにしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1人で過ごしたい時間を尊重するようにしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>出来るだけ自分で衣類を選んでいただいている。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>手伝える入居者さんには、野菜の下ごしらえや後片付けを職員と一緒にしていただいている。食事中は急かしたりせず、自分のペースで食べて頂いている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分摂取量をチェックし、少ない時には合間に補うようにしている。また、可能な限り自分のペースで食事をしていただいている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>基本的には毎食後口腔ケアを行っているが、拒否が強かったり、「後です」と言われた時には無理強いしていない。時間をおいて対応している。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>リハビリパンツに頼らず布パンツにパッドを使用し、トイレ誘導で対応している。また、全介助であっても、日中は出来るだけトイレで排泄を行えるようにしている。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘がちの方には起床時にプルーンジュースを提供している。また、出来るだけ水分摂取をしていただいている。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>出来るだけ強制しないよう気分よく入浴して頂くようにしている。ただ、職員の配置の関係上、夜間の入浴は出来ていない。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>疲れ具合や体調によってベッドタイムを取って頂いている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>副作用については、申し送りノートや記録を使って全職員に周知している。また、服薬後の症状の変化があれば医師に相談している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物たたみやお皿洗いを手伝ってくださっている。必ず感謝の言葉を表現し、役割を担っている事を実感して下さっているようである。また、自宅で散歩が日課となっていた方は続けて散歩に出かけている。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩に出かけたり、近隣にドライブにお連れしたり、気分転換が図れるよう配慮している。また、ホームでも西島園芸団地に行事として出かけた。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理が出来る方には問題にならない程度のお金を持っていただいている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族に電話をしたいとの希望がある時には取次ぎ、直接お話ししていただいている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な音を立てない、適切な室温を保つなど日頃より配慮している。また、季節感のある花木を飾ったり、壁に飾りを付けて明るい雰囲気を作っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自室で静かに過ごされたり、気の合う方同士お話しされたり、過干渉にならないよう配慮している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真、机や椅子、自分が昔描いた絵や大切にしていた本等を置いて頂いている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行能力が低下してもご本人に合った歩行器などを検討し、自由に安全に歩行が出来るようにしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない